

# 江戸と日本橋川

「江戸」の名は、「江の門戸」すなわち東京湾（あるいは近世以前に存在した日比谷入江）の入口にあたるということから生じたとする説があります。中世より江戸は水運が盛んでしたが、徳川家康の関東移封以降、舟運のための運河が開削・整備されました。

その周辺には河岸や町人町などが形成され、日本橋川と日本橋は、魚河岸と共に物流の中心地となりました。

## 日本橋の魚河岸形成までの主な出来事

年代	
12世紀初め	武蔵平氏の一流秩父氏（江戸氏）がこの地方に進出し、居館を構える。
1457年	太田道灌が江戸城を築城。江戸城下・江戸湊での交易が盛んになる。
1590年	徳川家康の関東移封。
1603年	江戸市街の大拡張工事が始まる。この頃までに日本橋が架橋される。
1610年	摂津国の名主森孫右衛門の長男九右衛門、日本橋の河岸を拝領して魚店を開き、魚河岸（魚市）の形成が始まる。



「長禄江戸之絵図」1847年

15世紀半ばの江戸の様子として描かれているが、後世に想像で描かれたと考えられている。

## 日本橋川

日本橋川は江戸幕府による江戸市街の拡張工事によって開削された。

一石橋から隅田川に合流する永代橋付近までの沿岸には、多くの河岸がつけられた。

また、常磐橋から日本橋にかけては、金融や商業の町として発展した。

### 江戸時代の日本橋川周辺の変遷



「分間江戸大絵図(完)」1864年

----- 本展示で主に取り上げる日本橋川の範囲

## 河岸

川または海に面した荷揚場。江戸時代、江戸湊には70ほどの河岸があったといわれ、日本橋から永代橋、八重洲河岸にかけてが最も多く、江戸の物流を担った。

### 日本橋周辺にあった金座・魚河岸



金座は江戸時代に金貨をつくらっていた機関。現在、この場所に日本銀行本店がある。日本橋周辺は両替屋や多くの商店で賑わった。

「日本橋北神田辺之絵図」1850年

現代地図 出典：地理院タイル(編集)

## 日本橋川の遠景



日本橋部分



裏

**常磐橋そばの金座でつくられた小判** 宝永小判 1710年 141  
江戸初期より外濠（現在の日本橋川）常磐橋にほど近い江戸本町一丁目（現・日本銀行）には、江戸幕府で金貨製造の取り纏めであった後藤庄三郎の役宅（後藤役所）が置かれていた。  
1698年以降、江戸の金貨の製造はここ一ヶ所で行われるようになり、江戸金座と呼ばれるようになった。



### 空から見た江戸・日本橋川

「江戸名所之絵」歙形蕙斎 1803年 902442

江戸の都市全景を捉えた鳥瞰図。中央に日本橋が描かれている。その下に日本橋川が流れ、隅田川（大川）と永代橋近くで合流し、海に続いている。佃島周辺には外海から荷物を運んできた帆船が数多く停泊し、その荷を積んだ荷船が日本橋川や隅田川を往来している。

### 江戸の物流を支えた日本橋川



「東都名所日本橋真景并二魚市全図」初代歌川広重 江戸時代後半 900179  
日本橋とその周辺に立ち並ぶ魚河岸（魚市）の様子が描かれている。日本橋川には魚や米、酒などを運ぶ多くの荷船が行き交い、日本橋が江戸の商業の中心地であった様子がうかがわれる。

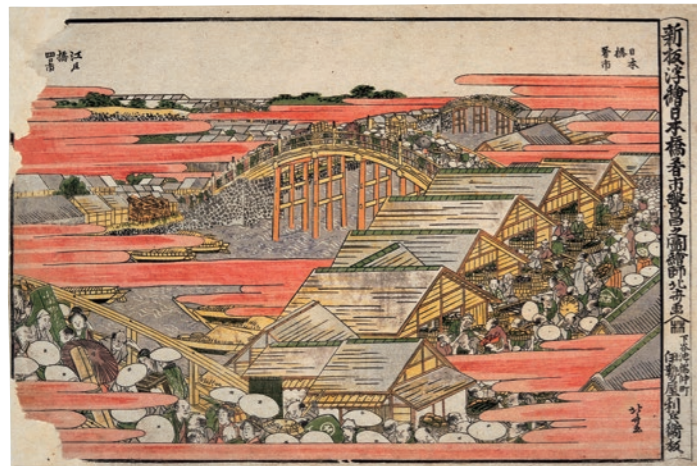


「東都名所八ツ見之橋真景」初代歌川広重 江戸時代後半 901609

「八ツ見之橋」とは一石橋のことで、橋の上に立つと一石橋を含めた八つの橋（道三橋、銭瓶橋、常磐橋、呉服橋、鍛冶橋、日本橋、江戸橋）が見渡せたことに由来する。

# 日本橋川と魚河岸

日本橋の魚河岸（魚市）は、江戸幕府の鮮魚御用を命じられた漁民が納入魚の余りを市中で商ったのが発端でした。その後、江戸の人口が増えるとともに魚介類の需要も増加し、たくさんの鮮魚が船で魚河岸へと運ばれました。荷揚げされた鮮魚は魚市で売り買いされ、魚売りによって市中でも売り歩かれました。



## 日本橋魚市のにぎわい

「新板浮繪日本橋魚市繁昌之図」葛飾北斎 江戸時代後半 900228

日本橋（中央）から江戸橋（手前）にかけて魚市の様子が描かれている。橋の上も市場も多くの人が往来し、当時のにぎわいを感じられる。奥に描かれている橋は一石橋である。



## 仕入れた魚を売り歩く：駿河町（現・日本橋室町）

「東都名所駿河町之図」初代歌川広重 江戸時代後半 901660

手前中央に、魚市から魚を仕入れ、売り歩く商人・棒手振りが描かれている。中央の通り奥に、金座のあった本町一丁目（現・日本橋本石町）、日本橋川（外濠）があった。

右手前の建物は、1683年に駿河町に移転してきた三井越後屋呉服店で、この頃から両替屋を併設しており、1687年には幕府御用商人となった。



## 日本橋の魚売り

「大江戸日日三千両繁栄之為市（雪）」  
二代歌川国貞 1859年 900242

日本橋の魚売りが描かれている。魚売りは、朝、盤台（魚を入れる桶）をくりつけた天秤棒を担いで魚河岸に仕入れに行き、江戸の町を売り歩いた。日本橋の魚河岸は「日銭千両」ともいわれるほど大金が動き、繁盛したことで知られている。

## 駿河町周辺の位置



●「東都名所駿河町之図」を描いた視点  
「日本橋北神田辺之絵図」1850年



## 江戸の水路と一石橋

「江戸名所四十八景 一石はし夕景」二代歌川広重 1861年 901579

中央の川は外濠であり日本橋川で、石垣と江戸城が奥に広がる。日本橋川は左手前の一石橋から東に折れ隅田川へ向かう。江戸城方面への水路は道三堀で橋は銭瓶橋。一石橋より南（絵では左手）の外濠や道三堀は、現在は埋め立てられている。



## 日本橋川と魚河岸の様子

「東都日本橋風景（魚河岸）」昇亭北寿 江戸時代後半 901661

日本橋川の様子を下流の江戸橋側から日本橋方面にかけて描いている。川には多くの船が見られ、棧橋から河岸へ荷揚げをしている。五街道の起点であった日本橋には、橋を渡る大名行列も描かれている。



## 日本橋の魚市の様子：江戸時代のガイドブックより

「東海道名所図会」六 秋里離島編 1797年 905216

解説には「橋下には魚船積船数百艘漕つとひて毎日に市を立る」とある。



## 江戸の風景と文明開化が混ざり合う日本橋

明治時代、交通の要衝である日本橋付近は文明開化を象徴する人力車や馬車などの新しい乗り物が往来し、洋風の建築も見られるようになりました。

日本橋を描く名所絵の主役は文明開化の風俗となる一方、背景として江戸時代以来の日本橋袂の高札場や日本橋川沿いの土蔵なども描かれ、町の移ろいの様子がわかります。



「東京日本橋御高札場之図」三代歌川広重 1870年 900180  
明治初期の日本橋の風景として、馬車や人力車が描かれているが、行き交う人々の様相や街並みなどからは江戸時代の名残りが感じられる。



人力車は1870年に東京で営業が始まった。  
日本橋には人力車の営業所があり、高札場の横には「御免人力車所」と書かれた旗が掲げられている。



「東京第一名所日本橋御模様替繁栄之図」二代歌川国輝 1873年 901662

明治初期の日本橋を描いたもの。日本橋は1873年に反りのない西洋式の木橋に架け替えられた。  
この絵はその直後に描かれたものと考えられる。  
右の煉瓦造りの建物は1872年に開業した日本橋電信局であるが、実際は白い洋風建築であった。

## 文明開化の日本橋と江戸から続く土蔵の川岸



### 明治初期の日本橋の様子

「東京三十六景日本はしの曙」昇斎一景 明治時代前半 900232  
夜明け前の日本橋の様子。江戸時代の日本橋に多くみられた棒手振りや旅人の装いをした人のほか、洋装の人もいる。  
左側には高札場がある。日本橋は1873年に反りのない西洋式の木橋に架け替えられたので、この作品はそれ以前の日本橋を描いたもの。

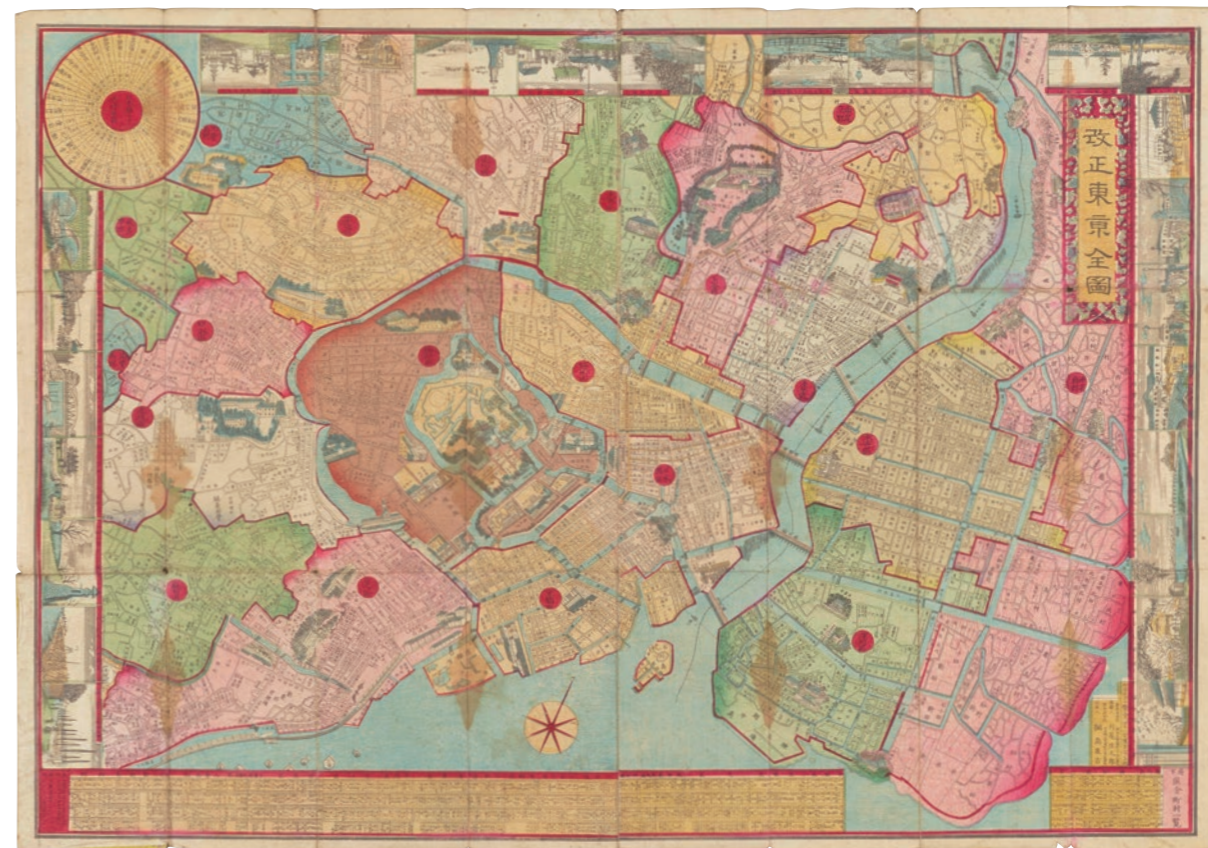
### 法令などを掲げた「高札場」

「東京自慢名勝八景日本橋の暮雪」三代歌川広重 1871年 900203  
描かれている高札には「太政官」「東京府」などの文字が書かれている。



### 高札場とは

- ・掟、条目、禁制などを庶民に周知するための「高札」を掲示したところ。
  - ・町辻、橋詰、街道の追分、船渡場、港頭、関所などに多く設置された。
- (江戸日本橋、京都三条大橋、大坂高麗橋などが有名)



明治の東京地図と観光スポット 「改正東京全図」1886年 902519

日本銀行初代本店や第一国立銀行など、当時の名所がイラストで示され、地図の周囲にも名所が描かれている。  
1878年東京府の行政区画は15区6郡となった。その区画に基づき、地図上には、赤い丸で各区の名称が書かれ、赤い線で区画されている。  
1947年に日本橋区と京橋区が合併し「中央区」となったが、日本橋区の町は、旧区域内の町名に「日本橋」を冠称し(ex.「日本橋本石町」「日本橋箱崎町」)現在に引き継がれている。

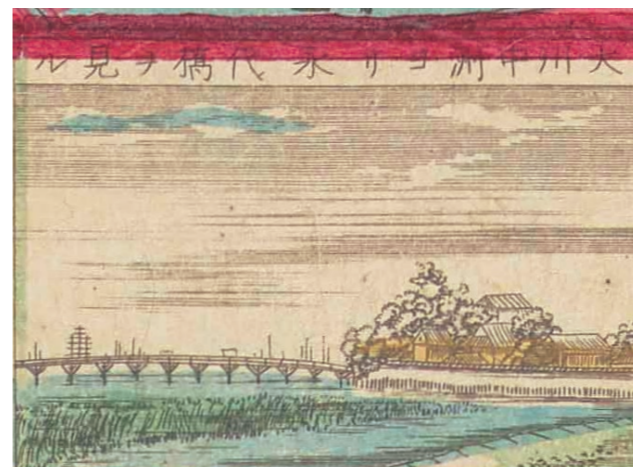
### 地図の周囲に描かれた名所



常磐橋



日本橋



永代橋

貨幣博物館 HP にて「改正東京全図」の高精細画像を公開中です。



2022年9月現在

# 日本橋川沿いに辿るにちぎん誕生までの歩み

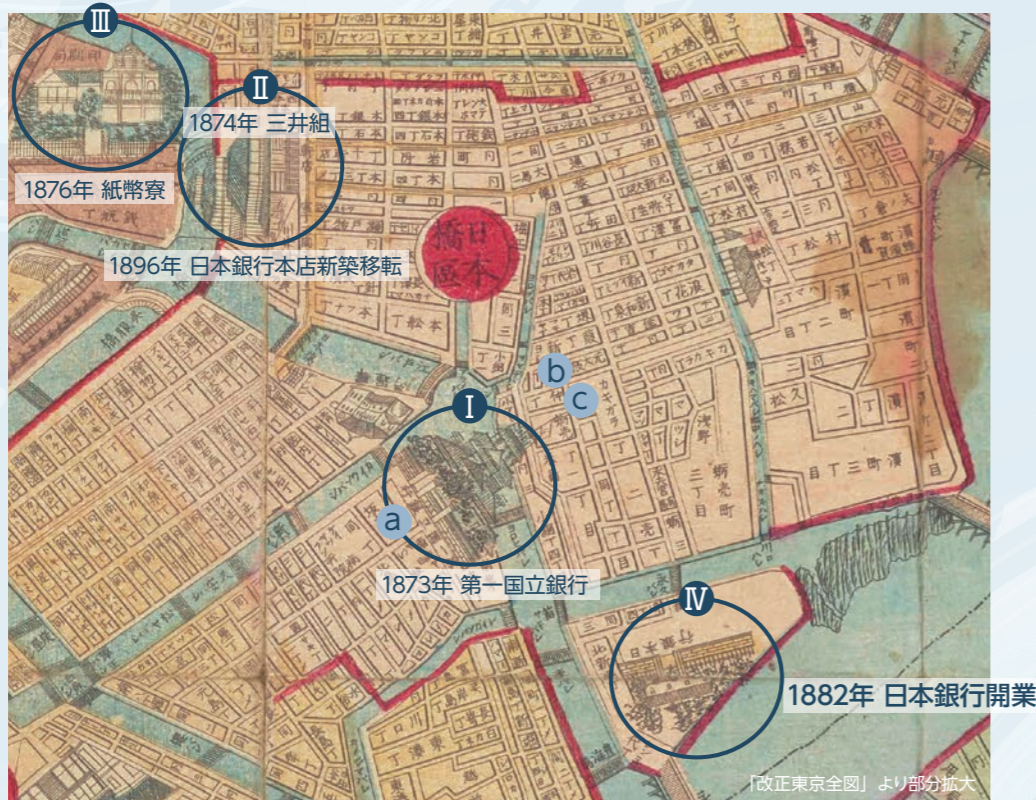
江戸の流通を担った日本橋川沿いは、江戸時代、両替屋や多くの商店が軒を連ね、商業・金融の地でした。

明治時代もその川沿いに重要な金融機関や商業関係の建物が多く建てられました。

明治に入り、金融の仕組み作りのため、さまざまな試行錯誤が日本橋川一帯の諸機関で行われました。そして1882年隅田川と合流する北新堀町（箱崎町）に、中央銀行・日本銀行が創設されました。

日本銀行が誕生するまでの歩みを日本橋川周辺の建物と共に辿ります。

<p><b>I 兜町</b> 1872年 三井組 1873年 第一国立銀行</p>	<p><b>II 駿河町</b> 1874年 三井組 1876年 三井銀行</p>	<p><b>III 大手町</b> 1876年 紙幣寮 1877年 国産の国立銀行紙幣製造</p>	<p><b>IV 北新堀町</b> 1881年 開拓使物産売捌所</p>
---	---	---	--



◆ 明治初期の日本橋川周辺の金融・商業機関

<p><b>a 兜町</b> 1868年 生産引立会所 産業振興の役所</p>	<p><b>b 元大坂町（蛸殻町）</b> 1869年 東京為替会社 政府主導の金融機関</p>	<p><b>c 蛸殻町</b> 1874年 中外商行会社 米先物取引</p>
---	--	--

# 「バンク・オブ・ジャパン」構想と明治初期の銀行論争

明治初期の日本では、近代的な金融の仕組みの骨格が固まるまでに、試行錯誤を繰り返しました。日本の社会や経済の実情を踏まえながら、欧米のさまざまな制度の導入が検討されました。

Bank of Japan (日本銀行) 設立の10年以上前、「円」の誕生した1871年の「バンク・オブ・ジャパン」構想、吉田清成と伊藤博文の間でイギリスの制度かアメリカの制度かを巡って交わされた銀行論争の一端をのぞいてみましょう。

明治初期の金融に関する主な出来事

明治時代初め	政府、三井組など有力商人に官金を取り扱わせ、また為替会社を設立させる
1871 (明治4)	<b>「バンク・オブ・ジャパン」銀行設立構想</b>
旧暦1月	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  大隈重信 大蔵大輔             </div> <div style="margin: 0 10px;">→</div> <div style="text-align: center;">  井上馨 大蔵少輔             </div> </div> <p>政府の保護の下、三井のような富商に正貨と兌換可能な紙幣を発行する銀行「バンク・オブ・ジャパン」を設立させよう</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">え…?! 自分の考えとはちがう…</div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  伊藤博文 大蔵少輔 通貨・銀行制度視察アメリカ出張中             </div>
5月	新貨条例
春~秋	<b>銀行論争 吉田清成 VS 伊藤博文</b>
	<p>政府は、産業振興と国家財政の基盤整備のため、近代的な銀行制度を導入することに。その方法を巡って議論が行われた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  吉田清成             </div> <div style="text-align: center;">  伊藤博文             </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>アメリカ ナショナル・バンクをモデルにしよう</b> 全国各地に民間銀行を設立し、不換紙幣を発行させるのが良い。</p> <p><b>イギリス イングランド銀行をモデルにしよう</b> 兌換紙幣を発行する単一の銀行を設立するのが良い。</p> <p>アメリカのナショナル・バンク制度は、万国無比の良法である。太政官札を回収するために発行予定の国債を担保とし、民間の銀行に紙幣を発行させよう。それは、官民両方の利益となる。</p> <p>いずれ日本でもヨーロッパ各国のように兌換紙幣を発行する単一の銀行を設立するのが良い。現時点で不換紙幣を発行する銀行を設立すると、後に問題が起きかねない。</p> <p>イギリスの銀行をモデルとし、正貨準備をひとつの銀行に集中させよう。その銀行が責任をもって兌換紙幣を発行するのが良い。</p> <p>兌換紙幣を発行する単一の銀行を設立するというのは、政府の都合（債務処理）だけを考えたもので、官民両方が発展する方策ではない。</p> </div>
6月	大蔵省、三井組に御用為替方を命じる
7月	三井組、兌換紙幣を発行する「銀行」の設立を願出 → 許可 → 許可取消
10月	政府、三井組名義の政府紙幣（大蔵省兌換証券）を発行
1872 (明治5)	国立銀行条例 ..... <b>アメリカのナショナル・バンク制度をモデルに</b>
1873 (明治6)	第一国立銀行開業（三井組も参画） @兜町
1876 (明治9)	三井銀行開業 @駿河町
1882 (明治15)	日本銀行開業 @北新堀町（箱崎町） ..... <b>最終的にベルギーなどヨーロッパの中央銀行制度をモデルに</b>

伊藤博文 山形県光市 伊藤公資料館蔵  
大隈重信 早稲田大学図書館蔵  
吉田清成 鹿児島県立図書館蔵



# 明治初期の試行錯誤

明治初期、政府は両建ての政府紙幣を発行しました。また有力商人の財力を借りて、紙幣を発行できる為替会社を全国に設立させるなど、殖産興業のため貨幣や通商に関するさまざまな施策を行いました。

1871年に全国統一の貨幣単位「円」を導入し、「円」単位の政府紙幣を発行しましたが、これも三井組の力を借りて発行されました。

## 江戸時代の単位を引き継いだお札



海運橋三井組でつくられたお札

東京為替会社紙幣 1869年 500405

為替会社は、貸付資金として自社発行の紙幣を使用した。紙幣製造は各為替会社に任せられたが、東京為替会社紙幣のうち3匁7分5厘銀札の地紙は海運橋の産物会所で造られた。



三井が扱った東京府・神奈川のお札

相模国神奈川為替 1869年 509384

表面に神奈川県裁判所の写真が貼付。正金引換所として「神奈川県裁判所」「東京府鉄砲洲役所」「鉄砲洲横濱三井取扱」とあり、三井が取り扱ったことが分かるが未詳。英語で兌換文言がある。



## 為替会社とは？

1869年政府の働きかけで有力商人が設立の中心となり、東京・横浜などに設立された金融機関。紙幣を発行し、通商会社への融資を行った。



「東京開化三十六景 元大坂町為換会社」三代歌川広重 明治時代前半 901632



「新開名所大坂町商社」永島孟齋 1875年 900135

## 元大坂町／蛸殻町（現・日本橋人形町）東京為替会社 1869年開業

はじめ兜町の旧牧野邸内に設置され、旧銀座役所跡の通商司へ移ったという。総頭取に三井八郎右衛門、島田八郎左衛門、小野善助ら8名が任命された。

## 政府紙幣の試行錯誤



太政官札 両建て

1868年発行 500361

日本で初めて全国的に流通する紙幣として発行された。江戸時代の金貨単位「両」が採用され、江戸時代の藩札の縦型が継承された。



大蔵省兌換証券 円建て

1871年発行 500372

1871年の新貨条例により発行された「円」建ての政府紙幣。両建ての政府紙幣の価値下落を受け、為換座三井組の信用をもとに発行された。

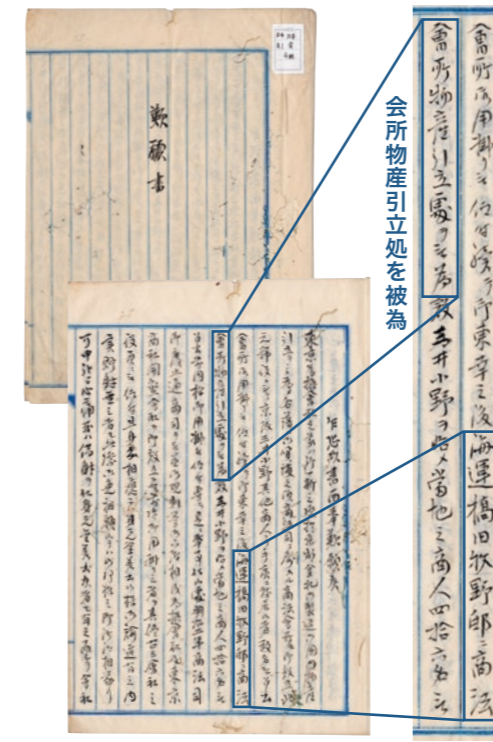
## 木造の海運橋と「三井組ハウス」

1872年6月竣工 設計・施工：2代清水喜助



神奈川県立歴史博物館蔵

## 東京為替会社の沿革について書かれた史料



「東京為替会社解散に付取願書」1879年

## 隅田川そば 鉄砲洲・東京運上所（後の東京税関）



「東都名所鉄砲洲明石橋之景」三代歌川広重 900220



# 三井組による日本初の銀行建築「三井組ハウス」のちの第一国立銀行(本店)

1872年6月、三井組独自の銀行設立に向け、海運橋際に「三井組ハウス」が竣工しました(設計・施工:2代清水喜助)。三井組の将来を見据えて全事業の中枢をこの建物に集中させるべく、三野村利左衛門らが細部にまでこだわって建てました。

しかし竣工後間もなく、政府からの強い求めにより、同建物は第一国立銀行へと譲渡されました。



### 三井家の家紋が施された三井組の象徴的建物

「海運橋為換座之図」昇斎一景 1972年9月 900069  
外壁側面の1・2階を隔てる帯状の飾り(胴蛇腹)に三井家の「四ツ目結」の家紋が見えるほか、建物の随所に三井家の紋が施されていた。  
この「三井組ハウス」完成以前より、同所の三井組構内には紙幣製造所が設けられており、兌換証券などの紙幣を製造した。



### 「三井組ハウス」を第一国立銀行へ譲渡

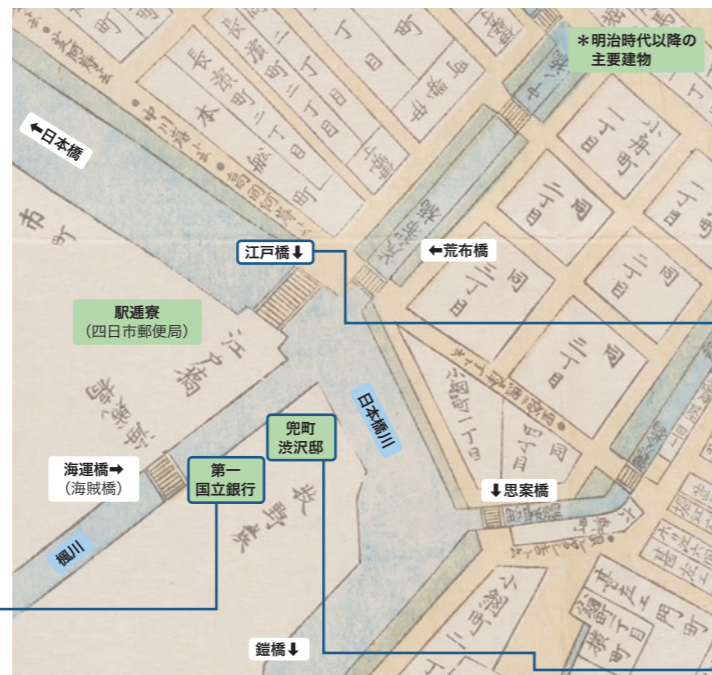
「海運橋三井組会社図」昇斎一景 1872年10月 900067  
竣工後、7月に内祝を済ませて間もない時期の「三井組ハウス」。  
画面中央の海運橋の向こうに「三井組ハウス」が描かれ、3・4階のバルコニーから物見を楽しむ人が見える。日本人が設計を手掛けた和洋折衷建築としては初期のもので、東京新名所の一つ。

## 楓川にかかる海運橋と第一国立銀行

海運橋は、江戸時代には「海盜橋」や「海賊橋」などの呼称があったが1868年10月に「海運橋」と改称された。1875年に洋風の石橋となった。1929年には改架されたが、高速道路の建設の際に撤去された。



長崎大学附属図書館蔵



「日本橋北神田辺之絵図」(部分) 1850年

## 第一国立銀行本店として

第一国立銀行は1873年7月20日、三井組より譲渡された建物を本店として開業した。三井組は小野組とともに同銀行の経営に携わった。



「東京海運橋第一国立銀行の全図并近圓の市中一覽の図」1876年永島孟斎 900062  
物見には第一国立銀行の旗が掲げられている。また画面左奥には、駿河町に新たに建設された三井組の建築が見える。この他、「為替会社」「第五銀行(第五国立銀行)」などの金融機関や、「郵便局」などが描かれている。



「東京江戸橋之真景」1876年小林清親 900075  
画面中央に日本橋川を水平に配し、中央右寄りの駅通寮と左奥の第一国立銀行(本店)を荒布橋から眺めた図。第一国立銀行は遠景ではあるが、川辺の蔵屋敷の向こうに物見と風見がのった5階建て和洋折衷建築が目立つ。画面右の石橋は江戸橋。

## 江戸橋周辺の移り変わり

江戸橋は日本橋の東側にかかれ、江戸時代には日本橋同様に漁船で賑わい、江戸内諸方への水運を担った。1875年に木橋から石橋に、1901年に鋼アーチ橋に架け替えられている。  
荒布橋は西堀留川に架けられた橋で魚河岸のあった本船町から小網町を結ぶ(1876年より石橋)。

### 江戸橋から荒布橋を眺める

1870年代後半~1900年頃



東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵

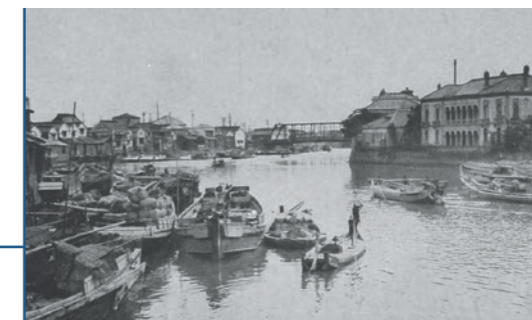
### 荒布橋から江戸橋・兜橋を俯瞰する



『臨時増刊風俗画報 第209号 日本橋区之部 卷之一 新撰東京名所図会 第二十五編』1900年 個人蔵

### 兜町・鎧橋を眺める

1880年代後半~



『東京風景』1911年より NDL蔵

お札からみる銀行制度  
民間の銀行



First National Bank, Pasadena / Los Angeles Public Library  
ナショナル・バンク（国法銀行）  
パサデナ・ナショナル・バンク本店  
（1880～1890年頃、カリフォルニア州）  
1864年に139行であったナショナル・バンクは3年後には1,648行に増え、各地に「First」を冠したナショナル・バンクが設立された。

サイン類

- 1 John Allison Register of the Treasury
- 2 A Wyman Treasurer of the United States
- 3 C. Whitehead
- 4 P. P. Hunt

アメリカ ナショナル・バンク制度 創設まで

南北戦争前

1791年と1816年、2度にわたり中央銀行の前身、合衆国銀行（The Bank of the United States）が設立されたが、各州の独立性を優先する政治的な圧力から廃止。

金銀複本位制を採用していたが、1830年代以降は、主に金貨が流通。

政府の債務証券や各州の法律に基づき設立された民間の銀行（州法銀行：state banks）が発行する紙幣も流通。

州法銀行の中には経営が安定せず、発行する紙幣が、額面価値で流通しないものも多かった。

南北戦争中 1861～1865年

1862年 政府の債務証券と金貨との兌換停止。政府は不換紙幣を大量に発行。

1863年・1864年のNational Currency Actに基づき、ナショナル・バンク、州法銀行に代わって紙幣を発行する民間の銀行として設立。

※なお、アメリカの中央銀行にあたる連邦準備制度（Federal Reserve System）の設立は、1913年。

# アメリカ 1863年～： ナショナル・バンクとその紙幣

南北戦争（1861～1865年）以降のアメリカでは、州法に基づいてそれまでに設立された民間の銀行（州法銀行：state banks）に代わり、連邦政府の法律に基づいて紙幣発行を行う民間の銀行（国法銀行：national banks）が全国に設立されました。

ナショナル・バンク紙幣は、連邦政府に預託した国債を担保に発行され、当初は不換紙幣であった。その後、1879年にアメリカが金本位制に復帰すると、兌換紙幣となった。

アメリカのナショナル・バンク紙幣の様式や文言は、日本の国立銀行紙幣に取り入れられた。



**I** 裏付資産：公債抵当  
This Note IS SECURED BY Bonds of The UNITED STATES DEPOSITED with the U.S. Treasurer at Washington.

**II** 「この紙幣を持参した人の求めに応じ\$10と交換します」  
Trenton, N.J. Mar. 7th, 1864  
The FIRST NATIONAL BANK OF TRENTON Will pay TEN DOLLARS to bearer on demand. NEW-JERSEY



**III** 関税と国債利子を除き、法定通貨として無制限通用  
THIS NOTE IS RECEIVABLE AT PAR IN ALL PARTS OF THE UNITED STATES, IN PAYMENT OF ALL TAXES AND EXCISES AND ALL OTHER DUES TO THE UNITED STATES, EXCEPT DUTIES ON IMPORTS, AND ALSO FOR ALL SALARIES AND OTHER DEBTS AND DEMANDS OWING BY THE UNITED STATES TO INDIVIDUALS, CORPORATIONS & ASSOCIATIONS WITHIN THE UNITED STATES, EXCEPT INTEREST ON PUBLIC DEBT.

**IV** 偽造への罰則文言  
COUNTERFEITING OR ALTERING THIS NOTE, OR PASSING ANY COUNTERFEIT OR ALTERATION OF IT, OR HAVING IN POSSESSION ANY FALSE OR COUNTERFEIT PLATE OR IMPRESSION OF IT, OR ANY PAPER MADE IN IMITATION OF THE PAPER ON WHICH IT IS PRINTED, IS FELONY, AND IS PUNISHABLE BY \$1,000 FINE OR 15 YEARS IMPRISONMENT AT HARD LABOR OR BOTH.

お札からみる銀行制度  
民間の銀行



日本橋川近くに建てられた最初の国立銀行

初期の国立銀行紙幣は、紙幣の体裁、記載事項もアメリカのナショナル・バンク紙幣と類似している。

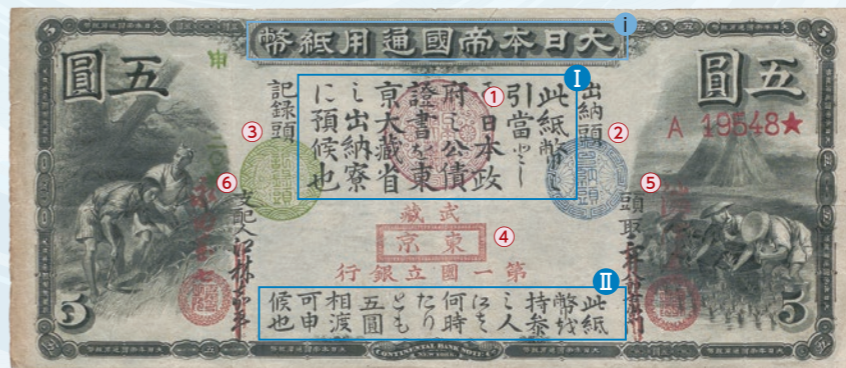
# 日本 1872年～： 「国立銀行」とその紙幣

「国立銀行」は、アメリカのナショナル・バンクをモデルとし、価値の安定した紙幣を発行する民間の銀行として設立されました。国立銀行の役割は、日本銀行が創設された後に変化しますが、日本の金融システムの中核となっていきます。

銀行論争を受け1872年国立銀行条例が制定された。論争の当事者の主張の中間を採り、兌換紙幣を発行する民間銀行を全国に設立することとした。しかし、正貨との兌換義務を課す当初の制度では、資金運用面での厳しい規制もあって、第一国立銀行など4行しか設立されず、その経営も安定しなかった。



大日本帝國通用紙幣 国立銀行紙幣の印刷① 製造：アメリカの印刷会社 発行：1873年～



**I** 裏付資産：公債抵当  
此紙幣の引當として日本政府の公債証券を東京大蔵省の出納寮に預候也

**II** 「この紙幣を持参した人の求めに応じ5円と交換します」  
此紙幣を持参之人は何時たりとも五圓相渡可候也

**III** 関税と国債利子を除き、法定通貨として無制限通用  
開港場輸出入税并に公債利息之外ハ此紙幣日本國中書面の金高に通用いたし政府不差出諸租税上納金或は政府より可選俸給諸拂等にも無差支相用ふべきもの也

- 日本で押印
- 1 大蔵脚印
  - 2 出納頭（出納頭印）
  - 3 記録頭（記録頭印）
  - 4 武蔵 東京 第一国立銀行
  - 5 頭取 三井八郎右衛門 濹澤榮一
  - 6 支配人 汪林嘉平 永田甚七

国立銀行条例の改正 1876年

発行紙幣の兌換義務停止  
↓  
不換紙幣発行の民間銀行、全国に153行設立。今日の日本の金融システムの骨格を形づくることに。

政府の意図

- ・国立銀行の貸出を通じ、地域の産業発展を図る
- ・土族の生計を助成する

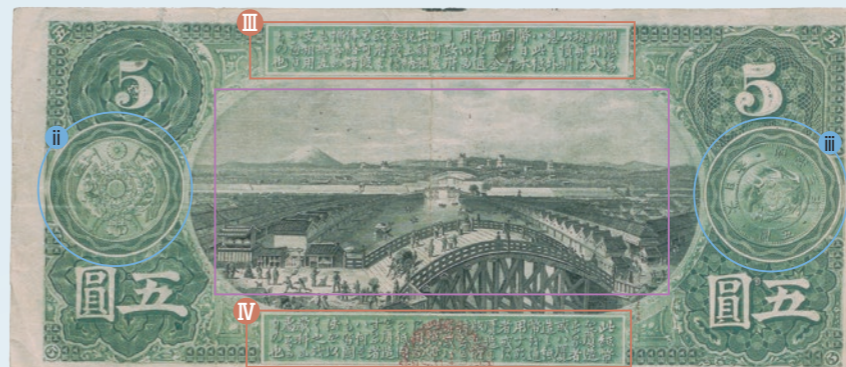


国立銀行紙幣の印刷② 製造：大蔵省印刷局日本橋川沿い@大手町常磐橋

- 1876年以降 国立銀行設立が相次ぎ、発行額増加。
- 1876年 10月 大手町新工場に移転
- 1877年 4月 旧紙幣に加印
- 1877年 9月 新紙幣1円原版完成
- 10月 新紙幣1円印刷着手



国立銀行紙幣新紙幣



**IV** 偽造への罰則文言  
此紙幣を製造する者或ハ廣造之紙幣を通用する者或は廣造之版を所持する者或ハ此紙幣に用ふる紙肉を製造する者ハ何れも皆國法を以て之を嚴科に處するもの也

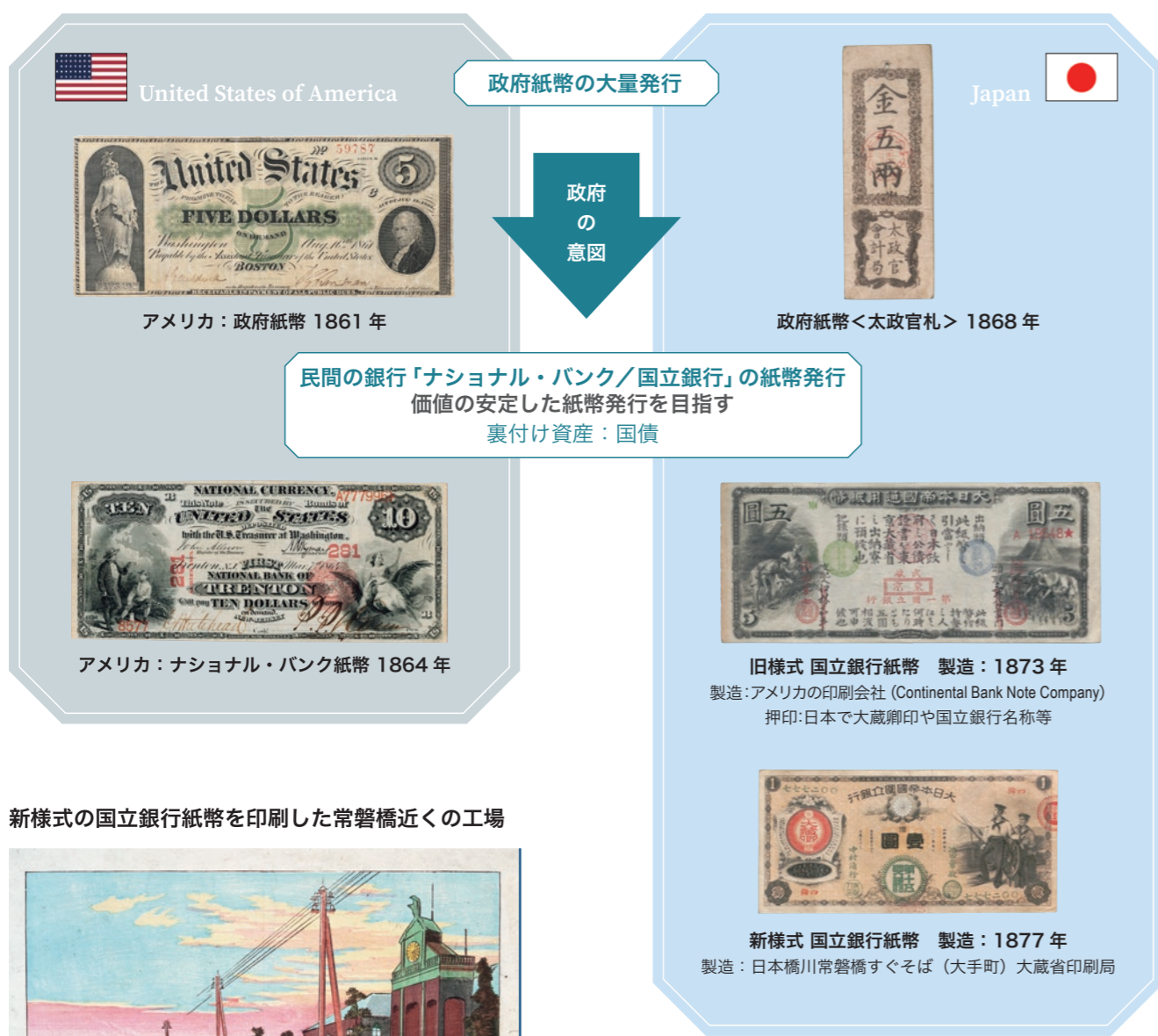
紙幣裏・左右に描かれた五円金貨

- ii 五円金貨裏
- iii 五円金貨 大日本 五圓 明治三年

五円金貨と等価なことを暗に示している



# 政府紙幣から民間銀行紙幣の発行へ



## 新様式の国立銀行紙幣を印刷した常磐橋近くの工場



「常磐橋内紙幣寮之図」小林清親 1880年 900022  
竣工：1876年 煉瓦造2階建 設計：ウォートルス、ポアンヴィル  
日本橋川常磐橋西側大手町に建てられた大蔵省印刷局の工場「朝陽閣」。

外国の会社に委託製造した紙幣原版や機械を取り寄せて増刷に備えた。紙幣の国内製造を進めるため、原版作成から印刷用インクの研究開発、紙幣の印刷が同所で行われるようになった。



「市郡変称東京全国」(部分) 1903年再版 1904年成

# 日本橋の描かれた国立銀行紙幣

旧様式の国立銀行紙幣5円(裏)の日本橋の図柄は、  
①伝安田雷洲「日本橋図」や②フランスの紀行文掲載の挿絵「Le Pont du Nippon」との酷似が指摘されている。  
西洋画の遠近法や鳥瞰図法により、中央に日本橋、川の左右に整然とした街並みが配され、奥には富士山と皇居(江戸城)が描かれている。



旧様式 国立銀行紙幣 5円(裏) 500440



①「日本橋図」  
伝安田雷洲 画 19世紀前期 神戸市立博物館 蔵



② Le Pont du Nippon (日本の橋)  
Le Japon Illustré 2 (『日本図絵』エメ・アンペール) 1870年  
九州大学附属図書館 蔵

## 図柄選定においても参考にされたアメリカのナショナル・バンク紙幣



ナショナル・バンク紙幣(裏) 501422



原画  
「デ・ソトによるミシシッピ川発見」  
William Henry Powell 画 Architect of the Capitol  
米国議会議事堂のドーム下広間にある壁画。  
1541年スペイン人征服者デソトがヨーロッパ人としてミシシッピ川を発見した場面。  
アメリカ建国にまつわる絵画が紙幣の絵柄として選ばれた。

## 国立銀行紙幣5円(表)の図柄

